

歩くような速さで

# 是枝裕和の世界

— 日常に息をひそめ、静かにゆっくりと  
寄り添うように撮る —



是枝裕和プロフィール  
1962年、東京生まれ。  
早稲田大学第一文学部文芸学科卒業。  
1995年に『幻の光』で映画監督デビュー。主な映画作品として、『ワンダフルライフ』、『誰も知らない』、『そして父になる』、テレビドキュメンタリー『しかし…福祉切り捨ての時代に』、ノベライズ『歩いても歩いても』など。『誰も知らない』は第57回カンヌ国際映画祭で柳楽優弥が最優秀男優賞を受賞、『そして父になる』は第66回カンヌ国際映画祭審査員賞他、国内外の賞を多数受賞するなど、高い評価を受けている。

日時 2015年2月28日 (土)

10:30~12:30

映画「奇跡」上映

13:00~14:30

是枝裕和さんトークショー

14:30~16:30

映画「歩いても歩いても」上映

会場 フォレスト仙台 2Fホール

参加料 1,000円



共催 仙台の子どもと教育をともに考える市民の会 仙台市教職員組合  
問い合わせ 仙台市教職員組合 Te1022-271-8290

仙台市青葉区柏木1-2-45  
地下鉄北四番丁駅下車 徒歩5分



※是枝さんの著作より抜粋

メッセージの受け渡しがあるとすれば、それは僕が渡しに行くのではなく、受け取りに行くのだ。被災地でまだ言葉にならず無意識の中に眠っている声に耳を傾けに行くのだ。自分の作品が、作り手としての自分が、この「現実」の前に晒され果たして耐えられるのか?見極めに行くのである(福島、仙台を訪れて)

映画『奇跡』は今3歳の娘が10歳になった時に見せたいと思って作りました。世界は豊かで、日常はそのまま美しく、生命はそれ自体「奇跡」なのだと、そう語りかけるように作ったつもりです。

「日本にはあなたたちとちがって精神的な神様がいないから、その代わりが死者なんじゃないの。ご先祖様に顔向けできないって言葉もあるし。恥ずかしくない生を生きるために「死者」いう存在が必要なんだよ、きっと」

僕は主人公が弱点を克服して家族を守り、世界を救うといった話が好きではない。むしろそんなヒーローが存在しない等身大の人間だけが暮す薄汚れた世界が、ふと美しく見える瞬間を描きたい。そのために必要なのは歯を食いしばることではなく、つい他者を求めてしまう弱さなのではないか。欠如は欠点ではない。可能性なのだ。そう考えると世界は不完全のまま、不完全であるからこそ豊かだと、そう思えてくるはずだ。

映画はまぎれもなく世界言語である。多様性を背景にしながら、その差異を軽々と越境し、みなぎ映画の住人としてつながれるというこの豊かさ。その豊かさの前に、現住所は意味を失う。

